

水処理剤のパイオニアとして環境保全に貢献します

1. はじめに

当社は三菱ガス化学(株)が開発しました空調用水処理薬剤を中心とした、技術サービスをベースにしたダイヤ水処理サービス(S. 59. 4)を前身として、平成 16 年 4 月に環境関連事業を中心とした現在の会社となりました。

主たる事業の空調用水処理剤は大きく分けて洗浄剤と防食剤、総合水処理剤に分類されます。当社(三菱ガス化学)はこの分野の製品開発パイオニアとして、洗浄剤では「デスライム」総合水処理剤では業界で最初にヒドラジンを水処理剤に応用し困難とされていた一液化を実現した「コントライム」を提供しながら 25 年の豊富な経験の有するに至っています。

2. 水処理剤の歴史に革命

三菱ガス化学が昭和 46 年に上市しました「デスライム」は現在も空調用に止まらず幅広く洗浄剤として使用され、近年では感染症のレジオネラ属菌の除菌洗浄剤としても広く知られています。この薬剤も過酸化水素をベースに洗浄剤として応用した事は当時としては画期的なことでした。

空調用の水処理剤はクーリングタワーの循環水に供して水の三大障害といわれる「腐食」「スケール」「スライム」の抑制を図ることにあります。

歴史を振り返りますと、水処理剤が世に出る前は、殆どが JRA(日本空調工業会)の基準で管理して薬剤が使用されていませんでした。その後、三大障害の内、2 液に分けて薬剤処理する方法が主流となりました。

当社が昭和 57 年に開発しました総合水処理剤「コントライム・M600」は従来の概念を打ち破りスライム抑制剤にヒドラジンをうい、尚かつ困難とされてきた一液化を実現し、三大障害を防止出来るようになりまし。この薬品は従来の性能に加えて高濃縮運転も可能にし、更なる節水にも大きな力を発揮しました。

その後、薬品改良の変遷もあり、非ヒドラジン系の薬剤を上市、今年度には従来から更に進化させた「コントライム・M2000」を上市し更なる性能向上を目指しています。

3. 技術力を背景とした薬剤開発と課題解決

当社の基本ポリシーは「技術に立脚し顧客の悩みに応える」としています。

時代の変遷と共に顧客のニーズ、置き換えれば「顧客の悩み」は変化してきます。現状を捉えますと、やはり大きなテーマは省エネルギーの更なる進展によるCO₂排出量の削減が上げられます。また、近年の感染症に対する世間の注目もあり、レジオネラ症の防止も重要な水処理のコンセプトです。

当社はこれらの課題に応えるため、薬剤開発、テクニカルサービスの充実を通じて「顧客満足度向上」を追求しています。

4. 水処理剤から幅広い環境薬剤への挑戦

平成 17 年からは水処理剤で培った、製品開発力、課題解決力を背景に特殊排水(難分解性排水他)処理剤の開発を行いこの分野への進出を致しました。

21 世紀は環境の世紀と云われています。とりわけ水戦争とも称される位、水に関する問題解決のニーズは広がりを見せています。当社の培った技術を生かして、水の多角的な利用に、少しでも貢献出来るように新たな薬剤や技術を提供していきたいと考えております。